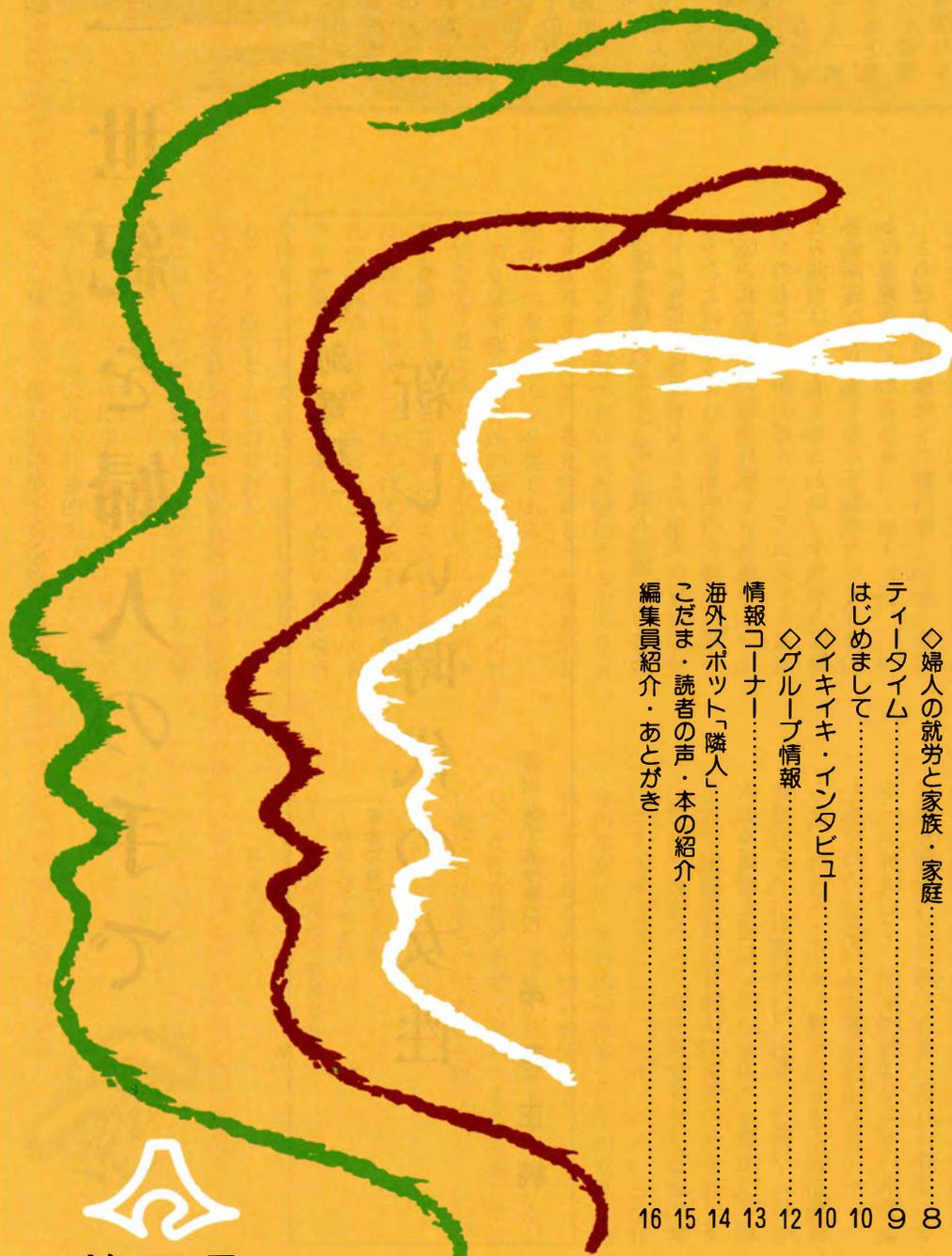


婦人のための情報誌

9号

ねとわあく



目次

特集 新しい婦人とは.....	2
◇新しい時代の女性.....	2
◇これからの就労.....	4
◇これからの家族・家庭.....	6
◇婦人の就労と家族・家庭.....	8
ティータイム.....	9
はじめまして.....	10
◇イキイキ・インタビュ―.....	10
◇グループ情報.....	12
情報コーナー.....	13
海外スポーツ「隣人」.....	14
こだま・読者の声・本の紹介.....	15
編集員紹介・あとがき.....	16



静岡県

二十一世紀を婦人の手で

「国連婦人の十年」は昨年終わりました。我が国においても、「男女雇用機会均等法」の制定など、その成果は大きいものがあり、婦人問題に対する理解も着実に増えています。本県においても、今年三月、二十一世紀を展望しつつ、今後十年間の本県の婦人問題についての目標と課題を明らかにした「婦人のための静岡県計画」を策定しました。

「国連婦人の十年」は、日本の婦人問題に火をともしました。今後、この火をもっと大きくするためには、男性が、そして社会が積極的に取り組む必要があることはいうまでもありませんが、なによりも婦人が自らの問題としてとらえ、地道にその解決に取り組む必要があると思います。これからの時代は、婦人が個性と能力を発揮し、家庭との調和を図りながら、社会参加することが求められています。真の男女平等意識を持ち、社会的責任を自覚し、男性と共に二十一世紀を担っていきましょう。

「特別寄稿」

新しい時代の女性

静岡女子大学教授 中森正純

「国連婦人の十年」は、婦人が歴史的に長いトンネルを脱出することの出来た黎明期であったといつてよい。世界中の女性が、暗い抑圧された時代の殻を打破し、共通のスローガンのもとに、新生婦人として出発する基盤と方向づけを形成したことは、今後の人間世界に深遠な実りをもたらすものとして、まことに意義深いものである。

この婦人問題解決への動向は、二十一世紀に向けての長期展望にたった、男女平等に基づく、真の男女共生時代、戦禍のない世界平和と社会発展が、近い将来に実現されることへの前兆であると考えたい。それだけに、この十年の歩みが現実のものとなるためにも、これからの婦人のあり方が厳しく吟味される

ことになると思う。

現在、女性をとりまく社会情勢は急速に変化し、生活周期の変動は、女性の生き方に多大なる課題を提起していることは周知のとおりである。「国連婦人の十年」の後のこれからは、女性をとりまく種々な生活矛盾を解決するために、まず、身近かな問題を足元から一歩一歩解決していかなければならない重要な責務を背負った時期である。新しい時代への転換期に即応できる自立した女性と体制とが強く要請される所以である。

静岡県では、本年三月に「婦人のための静岡県計画」を策定した。その内容は、①男女平等を基本とした教育の推進、②婦人の社会参加の促進・充実、③働く婦人のための条件整



備、④母性の尊重と健康の増進、⑤家庭生活の安定と福祉の向上、の五つの柱を主要課題として、それぞれに数多くの施策計画がもりこまれている。いずれも軽視できない重要なものばかりであり、今後、これらをどのように実現させていくかが問題である。

これら巾広く奥ゆきの深い婦人問題を、女性の個々人の自覚のもとに、婦人活動、行政的施行が三位一体となって解決し、より充実したものと発展させていかなければならない。

新しい時代への女性のあり方の基本は、決して「とんでる」ものではなく、地に足のついた地道な活動を根気よく続けることが出来ることが前提となる。そのためには、感情的な偏見や視野の狭い近視眼的なものを見方や考え方を捨てて、先見性をもった大乗の見地からの取り組みが必要である。

男女雇用機会均等法の発令以来、女性の社会的な受け皿は拡大するであろうし、女性の能力を發揮して、社会発展に資する機会と場所は、確実に増大していくはずである。情報化社会や高齢化社会、あるいは、家庭崩壊や青少年問題などの社会現象は、女性の働く場所や内容がこれまでに以上に多様化して提供されることを暗示するものである。

これら急変動をつづける社会的、家庭的課題に対して女性の賢明な対応がぜひとも必要である。

これからの女性に求められることは、私的個人的志向から公共的社会的志向へという態度、心構えや、部分的活動から全体的活動へ

と活動の統合的体制づくりに向って努力できる資質である。

家庭や社会にあって、潜在的な男性依存を改め、都合によっては家庭に逃避するといった、主体性に欠けた、おざなりな社会参加意識を改めて、自分の置かれた現状を直視し、主導的姿勢をもって、自己の能力を生かしていくという、社会的責任を自覚した、真に自立した新生婦人が要求される。

これからの女性が、社会的、人間的信頼を啓発し、時代に即応した技術や資格などをもったプロフェッショナルな個性であれば、男女差別問題は、自ずから解消されるであろうし、意志決定の場への登用は、抵抗なしに実現すると思う。これは、現在、いろいろな社会的場面に、主導的活動家としての女性が出現していることで明らかである。

婦人問題は、女性が自助努力をつづけながら、女性自身の手で、自らの変改を通して成し遂げられるものであると思う。

筆者プロフィール
昭和九年生まれ
「婦人のための静岡県計画
策定委員会」において、第
一部会長を務めた。



これからの就労

就労という社会参加を求めて

企業が求める

これからの女性

女性の社会参加の拡大とともに企業でも女性の戦力化に本格的に取り組み始めています。企業が求めるこれからの女性について、ヤマハ発動機(株)和久田人事課担当課長さんにお話をうかがいました。

◇◇これからの企業◇◇

当社は二輪車を中心とした製造販売を行っています。かつては男性の乗り物としか考えられなかった二輪車ですが、最近では、ユーザーの三人に一人が女性なのです。また、三五〇cc以上の大型バイクの免許をとろうとする女性も増えて来ています。女性の社会進出にともない、二輪車の市場にも、女性が大きな影響を与えるようになりました。

変化の激しい時代にあつて、企業が生き延びて行く為には、消費者の動きを常に先取りし、生活の変化に対応していかなければなりません。その為、各企業とも、積極的に異質な人材を取り込んでいくこととする傾向にあります。当然優秀な女性を確保し、新しい発想を取り入れようとするでしょう。

◇◇女性だけの商品企画チーム

「レディース・ラボ」◇◇

女性が多く乗るファミリーバイクの商品作りに、「もつと女性のチエと感性を」という発想で組織されたのが、レディース・ラボです。レディース・ラボは各部所から集められた女性十九人からなり、新入社員から社歴六年まで、平均年齢二十三才という若さです。既婚者も三人いて、主婦の目も活かされています。彼女たちの提案する女性ならではの視点や発想は、スタイル、カラー、宣伝にと、予想以上に幅広く取り上げられています。今後の活躍が期待されます。



◇◇再雇用について◇◇

退社した女子社員の再雇用については、現在まだ制度化されていません。しかし、今後については、登録制を設け、再雇用を可能にする方向性が検討されています。そ

の際には、やはり女性側も、何か一つ専門的能力を持っていた方が有利であることを自覚し、自分に力をつけることを心掛けていきたいものです。

◇◇男女雇用機会均等法◇◇

この法律により、今まで男性だけ採用してきた職務に対して、女性も採用されることになりました。今いる人達に対しては、社内公募を行い、研修等を通して育成を計っていきます。ですから、何年か先には、当社でも管理職につく女性が出てくると思います。

◇◇企業が求める

これからの女性とは◇◇
企業が求めるものは、基本的には男性に対しても、女性に対しても変わりありません。豊かな感性を持ち、世の中の動きを理解し、組織の中でうまく対応しながら、積極的に仕事に取り組むことのできる人、このような人を企業は求めています。

女子社員にお茶くみをさせる時代は終わりました。女子社員を積極的に活用するにあたっては、力を十分に発揮できる場を、意図的に考えています。こうした企業側の立場を理解した上で、女性も、自分に何ができるかを考えるべきでしょう。

看護婦として

地元の国立湊病院で看護婦一筋。就労、家庭、地域活動を両立させている平山ふみ江さんにお話をうかがいました。

◇看護婦をめざして◇

昭和31年、高校進学が30%の時代、父親のない子の進学は夢でしたと、平山ふみ江さん。

「女でも一生活けられる仕事を持つように」。親代わりの祖父母の強い願いが、自活への道を開き、勉強したい一心で、近くの国立湊病院附属看護学院を受験。卒業後四年働き、更に進学(同期生20名中3名)看護婦の資格を手にした時の嬉しさは忘れられません。

◇看護婦・家庭・地域◇

やがて結婚、出産、育児と、追われるような日々が続きましたが、健康であったお陰で無理も重ねませんでした。

路線バスを乗り継いでの通勤。雨や、真冬の深夜勤の時など、むずかる子を置いて出る辛さに何度かくじけそうになりましたが、白衣に着替えて一步職場に入ると人命を預かる緊張感が気分一新、仕事に没頭できました。

看護婦という職業への家族の理

解、夫の協力で職場と家庭が両立。交替勤務のあい間を縫ってPTA、婦人会の当番もやり、田舎で大切な近隣のお付き合いも欠かせません。欠席しがちでも、月一回の読書会への参加は地域を知り、勉強する貴重な機会となっています。

◇天職の誇りを持って◇

日進月歩の医学の世界、高度化して行く技術や、新しい設備に追いつくために、私たちの勉強は欠くことができません。先生方から「君たちが頼りだから——」と云われますと、看護婦の仕事の厳しさを強く感じます。

若い時は只々、夢中でしたが、良い職場を得て、20数年も働ける私は幸せです。仲間たちとの交流、患者さんとのふれ合いに、今は看護婦という仕事が天職だと思えます。眼鏡の奥からさわやかな笑顔が広がる、キャリアアウーマンの平山さんです。(編集員 加藤美百合)



左側
平山さん

パートタイムとして

パートタイムを選んで、見事に社会復帰に成功した、(株)静岡伊勢丹勤務の、萩原和子さんに、仕事への抱負を、うかがってみました。

◇パートで再就職◇

萩原さんが再就職を考えたのは、子育ても終わり、40代も半ばを過ぎてからでした。幸いなことに、若い頃、勤めた経験のある(株)静岡伊勢丹に再び採用されました。以前、働いたことのある職場なので戸惑うこともなく、すんなりと順応できたそうです。

◇はりきる萩原さん◇

食品売場の洋酒係を担当していますが、若い人ならともかく、お客様の質問に、「わかりません」では済まされないと人一倍、商品に関する知識の会得には努力を怠りません。パートですから、四時半で帰宅しても良いのですが、残業手当の有無に関係なく、次の日の段取りをつけたり、自分の納得がいくまで仕事を片付けないと気が済まない性分なのだそうです。

職場の仲間は、良い人ばかりですが、それでも時間外は角度を変えて、なるべく外部の人とも接するように心掛け、家庭では、絶対

に愚痴をこぼさないようにしているそうです。「でも、私には捜しても、こぼすような愚痴が無いのですよ、本当に仕事が楽しくて。」と言いきれるのも、細かい心くばりのたまものには違いありません。

以前、働いていたとは言え、子育ての間の空白は大きく、せめて十年前、30代に職場復帰できていたらと残念がる萩原さんですが、その空白こそ、今の萩原さんの仕事への情熱の源かも知れません。



◇企業でも◇

企業側でも、パートタイムの就労者の意欲を高める為、待遇改善が検討され、すでに、能力のある人には基本給を上げるなどの事項が決定されたそうです。

☆萩原さんの完璧な対応ぶりには定評があります。親切で、テキパキと行き届いたアドバイスは、いつまでも心に残ります。

(編集員 太田美恵子)